令和５年１月 23 日

令和５年

第１回教育委員会定例会会議録

大田区　　教育委員会室

令和５年１月23日（月曜日）午後２時から

１　出席委員（６名）

小　黒　仁　史	教育長
三　留　利　夫　　　委　員	教育長職務代理者
弘　瀬　知江子　　　委　員	
髙　橋　幸　子　　　委　員	
深　澤　佳　己　　　委　員	
北　内　英　章　　　委　員	

２　出席職員（６名）

教育総務部長	今　井　　健太郎
参事（教育施設担当）	河原田　　　光
教育総務課長	政　木　　純　也
学務課長	大　竹　　豊　和
指導課長	早　川　　隆　之
指導企画担当課長	細　田　　真　司

３　日程

日程第１　教育長の報告事項

日程第２　部課長の報告事項

~~~~~~
~~~~~~

（午後２時00分開会）

○教育長

それでは、ただいまから、令和５年第１回大田区教育委員会定例会を開催いたします。

本日は傍聴希望者がおります。

委員の皆様に傍聴許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長

傍聴を許可いたします。

（傍聴者入室）

○教育長

大田区教育委員会傍聴規則第７条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または拍手その他の方法により公然と可否を表明することは、禁止されております。ご協力をよろしくお願いいたします。

これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしていますので、会議は成立しています。

まず、会議録署名委員に髙橋委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

続いて、本日の日程第１について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第１は、「教育長の報告事項」でございます。

○教育長

本日は、１月20日金曜日に行われた大森第二中学校の研究発表会と、１月21日土曜日の入新井第五小学校の開校90周年記念式典、それから、１月22日日曜日に行われた羽田地区の親子レクリエーション大会を見学させていただいたことについて、報告いたします。

まず、大森第二中学校の研究発表会ですが、本校にはコミュニティ・スクールの２年間の実践研究について、発表をしていただきました。

公開授業が行われまして、１年生は地域の歴史と産業革命についての学習を、２年生は職場体験の発表などを行いました。

コミュニティ・スクールは本年度、小学校３校、中学校２校で本格実施をしておりますけれども、大森第二中学校はそのうちの１校で、先進的に研究していただきました。

本校が、学校と地域が連携共同体であるという基本的な認識を持って、コミュニティ・スクールの推進に取り組んでいるところが、大変印象に残りました。

中学生と地域との距離は、小学生に比べるとやや遠い印象がございます。小学生はまだ幼いので、地域の方々に登下校を見守っていただき、総合的な学習の時間にも、地域の方々がゲストティーチャーとして来て、お話をしていただきました。また、夏のわくわく

スクールでは地域の方々にたくさん出ていただいて、講座を開いていただくなどの取組がありました。

中学生になりますと、２年生のときに職場体験で地域の企業やお店の人、施設などにご協力いただく機会もありますが、祭りや運動会など、地域行事への参加が若干減るという傾向があります。地域とのつながりも薄れてしまうというように思います。

しかしながら、不登校生徒の増加など、思春期を迎える中学生の課題は非常に大きく、学校だけでは担いきれない状況もございます。

その一方で、中学生になるとできることもたくさん増えて、地域の人と関わり、その中で自信を持って将来について考えたりする機会を持てるかと思います。中学生にとって、この時期での人間としての成長は、とても大事であると思っております。

大森第二中学校の授業の様子を見ますと、地域の特色調べとか、職場体験の発表とともに、中学生として一生懸命受け止めて取り組んでいる様子を伺うことができました。

授業の内容については、中学生の主体性や可能性を引き出す工夫がまだまだできるかなと思いましたけれども、まずは、地域と連携共同体であるという意識のもとに、教員や先生が取り組むことに向けての前進があったというふうに思っております。

私自身は、大森第二中学校に多くの児童が進学する、入新井第一小学校の校長を 10 年余り前にやっておりましたので、大森第二中学校での様子ですとか、地域と一体となって子どもたちを育てる授業の取組が行われていることには、喜びを感じたところでございます。

研究の成果として、地域の方が学校教育の当事者としての意識を持っていただけるようになったこと。また、生徒と地域の方々とのより良い関係ができたこと。それから、学校と地域、ＰＴＡでの支援体制が構築できて、学校の課題解決が進んだことなどを挙げておりましたけれども、これらはコミュニティ・スクールのねらいでありますし、今後のコミュニティ・スクールの推進に、この成果を生かしていけるのではないかなと期待を持てるところでございました。

それから、１月 21 日土曜日には、入新井第五小学校の 90 周年記念式典がございました。入新井第五小学校は、前日に研究発表を行った大森第二中学校のすぐ近くにあり、卒業生の多くが大森第二中学校に通うことになります。こちらの小学校も、私がおりました入新井第一小学校と大変関わりが深くて、昭和７年に入新井第一小学校から分かれて開校した学校です。

入新井第一小学校の創立は、明治８年に開校した磐井小学校と新泉小学校に起源を持つわけですけれども、その磐井小学校があったのが、現在の入新井第五小学校があった場所だそうです。私は、そのことを当日の朝、校長先生からお聞きすることができました。当時、入新井のあたりは不入斗村と呼ばれていたそうで、それから新井宿村が一緒になって入新井という村ができたのですけれども、その村の中で学校を創設するということで、入新井第一小学校が誕生しております。

そのようなゆかりがある学校なのですけれども、入新井第五小学校で大変印象に残ったのが、式典に参加した５、６年生です。立派な姿でした。式典・祝賀会でこのような式を良いものにしていこうという意欲が、子どもたちの表情とか、歌声にあふれていたのは、素晴らしかったかなと思います。

このコロナ禍の中で、歌や呼びかけが制限されていましたけれども、久しぶりに思い切って５、６年生の子どもたちが活躍する姿を見させていただきました。校長先生も５、６年生が自慢ですと言っておりました。

また、この 90 周年を記念する歌を先生たちが作って、それを披露していただきました。開校記念に歌を作って歌うというのは、かつてはよくあったことでございますけれども、先生方の意欲、そういう思いがなければ、なかなかかなわないことです。

学校全体を見て、やはり先生たちの意識の高さが、子どもたちの姿や活動を作り出しているように感じました。大変良い式典であったと思います。

祝賀会でも、卒業生の落語家の方に落語を披露していただいて、様々な人材がいらっしゃるのだなと思ったところでございます。

最後に、１月 22 日日曜日に、羽田地区の親子向けレクリエーション大会に行ってまいりました。多摩川大師橋緑地での開催でしたけれども、近隣の５、６校の小学生の子どもたちが 100 名ほど集まって、自分の作った凧を揚げる凧揚げ大会をやったり、リレーをやったり、フリスビーをやったり、様々なものに取り組んでいました。

もう 70 年も地域で続いている行事だそうです。ここ３年間、コロナのためできなかったのですけれども、子どもと親の数と同じぐらい地域の方々、ＰＴＡの方々、学校の先生、校長先生、青少年対策地区委員会の方々、町会の方々に本当にたくさん出ていただいて、子どもたちも自分で作った凧を揚げて走り回っていました。風が少し弱かったのですけれども、なかなか上手に揚げていて、親御さんたちも楽しそうでした。

今の子どもたちにはビデオゲームがあって、大寒の本当に寒い時期には、外に出て凧を揚げるとか、そういうこともなかなか少ないのではないかなと思っておりますけれども、このような健康にも良い行事が本区にあることは、大変ありがたいことだと思っております。

地域のほうも高齢化とか、様々な課題がありますけれども、子どもと地域の方々が一体となってやっていく取組の良さというのも、本当に強く感じたことです。

冒頭にコミュニティ・スクールの取組についてお話しさせていただきましたけれども、地域と学校とが連携し、協働体として、子どもたちを育てていく取組というのは、やはりしっかりと本区に根付かせていくことが大事だなと思いました。

私からの報告は、以上でございます。

何かご質問・ご意見はございますか。

〇三留委員

私も１月 20 日の大森第二中学校のコミュニティ・スクールの発表と、１月 21 日の入新井第五小学校の周年行事に参加をいたしましたので、感想を述べたいと思います。

大森第二中学校の研究発表会では、コミュニティ・スクールというだけではなくて、地域学校協働本部の活動についても、発表しておりました。

先ほど、教育長からもお話がありましたが、私もこの学校の研究の特色は、実践共同体という概念を示したことだと思います。

それで、地域学校協働本部の活動は、これまで学校支援地域本部が行ってきた「学校を援助する」という取組にとどまらず、地域・学校の双方向で活動の充実・活性化を目指し

ています。そういう意味でも、大切な概念だと感じました。
　また、職場体験支援、部活動支援、授業支援など、学校に対する様々な支援が充実していました。学校支援地域本部から地域学校協働本部に変わって、さらに支援体制が充実してきているのではないかなと思いました。
　当日の授業は、１学年の地域調べと２学年の職場体験の発表だったのですけれども、どのクラスもゲストティーチャーが充実していて、子どもの発表の後、子どもの活動をほめたり、価値付けたり、また、新たな知識を子どもたちに披露するというような活動がありました。こうしたことが日常化できるということは、大変素晴らしいことだと感じました。
　研究発表会の中であったパネルディスカッションでも、多くは支援体制の良さが指摘されていましたが、パネラーの一人である学校長から「地域の方々から、防災教育や性教育の取組について要望が寄せられたが、こうした意見を生かせるような運営をしていくことも大切」というような発言がありました。
　今、地域に開かれた教育課程ということが言われている中、地域の皆様の意見をコミュニティ・スクールで検討して、効果的な学校運営に生かしていくことが、今後大切になってくるのではないかと思いました。
　今後、コミュニティ・スクールは、大田区の学校全体に広がっていくということで、各学校では、どのような取組を進めていくのか、しっかりとしたビジョンを持って準備を進めてもらいたいと思っております。
　入新井第五小学校の周年行事は、子どもがしっかりとした態度で臨んでいたのが印象的でした。式典での呼びかけによる喜びの言葉、それから、歌も素晴らしかったです。
　祝賀会での 90 周年を振り返る発表もしていましたけれども、どの子も一生懸命で、大変好感が持てて、感激いたしました。
　入新井第五小学校は、特別活動の研究をしている学校でもありまして、儀式的行事らしい周年の活動を見せてもらったように感じました。

○教育長
　ありがとうございました。
　ほかにございますか。

○高橋委員
　教育長と三留委員と重複する部分があるかと思いますが、私も、ものづくり教育・学習フォーラムと大森第二中学校の研究発表会、入新井第五小学校の 90 周年記念式典に参加したので、それについて報告したいと思います。
　ものづくり教育・学習フォーラムは、今回は六郷工科高等学校を借りての開催でした。舞台発表も久々だったので、とても楽しみにしておりました。各校のものづくりの発表がありましたが、環境問題も同時に考えていたことや、中学生の職場体験も深く考えながら体験していることに感心いたしました。
　ものづくり体験コーナーは、インターネットによる事前申込みで、各教室を使って丁寧な指導のもと、楽しい体験をしていました。この体験では欠席者がいたということでしたが、地域の行事でも当日欠席が多く、どのようにしたら良いものか課題になっています。

技能コンテンストのソーイングを見学しましたが、自分のペースで丁寧な作業をしていました。結果については後ほど、指導課長から報告があるのを楽しみにしております。

大森第二中学校の研究発表会では、公開授業として１年生は大森の地域調べということで、自分たちで発表したり、ゲストティーチャーの講義を受けたりなど、私もとても興味のあるテーマでしたが、生徒も集中して聞いていました。地域の方のお話の中で、いじめはだめだとはっきり話してもらったことが、心強く感じました。

２年生は職場体験事後発表会でした。ものづくり教育・学習フォーラムでも感じましたが、体験を通して働くことを深く学んでいて、発表することでみんなが共有できるのは、意義のある学習だと思います。

また、パネルディスカッションは、コミュニティ・スクールをこれから増やしていくうえで、現場の声としてとても参考になったと考えます。

入新井第五小学校の 90 周年記念式典ですが、式典では先ほどもお話があったように、５、６年生の喜びの言葉がありました。それに続く合唱は、練習時間が短いと聞いておりましたが、素晴らしいハーモニーでした。

祝賀会は、校長先生のまめ知識のお話から始まったのですが、歓談や卒業生の噺家の落語も和気あいあいとした楽しい会でした。ここでも６年生が 90 年間を振り返り紹介してくれていました。これからも、校風を大切に守り続けてほしいと思いました。

○教育長

ほかにございますか。

○北内委員

私からも、３点報告いたします。

一つ目は、第 21 回ものづくり教育・学習フォーラムについてです。

午前の部では、会場である六郷工科高等学校から学校紹介がありました。生徒が職業体験を通して、自分自身に向いている仕事を見つけることができたというお話がありました。

入新井第五小学校では、「大森の海苔」について調べ学習し、地域の老舗工場をめぐって、ご当主へのインタビューを発表しました。

久が原小学校は、ものづくりから「みら E→OHTA」ということで、廃材のわらを使ったものづくりを発表しました。

雪谷中学校は、地産地消の調理の研究、矢口西小学校は、ほたるの里を守っていこうということで、ほたるのかご作りについて発表しました。

大森第一小学校は、環境学習の一環として、ケナフの栽培について、報告しました。

大森第八中学校は、ジュニア料理選手権に向けての取組を発表しました。毎日食事をいただけることに対して、生産者と保護者への感謝の気持ちを述べていました。

相生小学校は、廃材を活用した未来の町について、ＳＤＧｓ学習の中でわら細工を製作・発表しました。

午前の部最後の出雲中学校は、職場体験学習について発表しました。ドラッグストアに行った生徒は、洗剤が重たくて、体力を使う仕事だと感じたそうです。花屋さんに行った生徒は、陳列の仕方や、水やりを１日に何回もするということに驚いていました。神社の

巫女さんの職業体験をした生徒は、ごみの分別や、踊りを習ったということを発表しました。

午後の部では、蒲田女子高等学校のフード・アンド・ファッションクラブから、ファッションショーをメンバーと協力して発表しました。ショーの服は自分たちで全て製作し、リーダーがチームメンバーで協働することの大切さを学んだと述べていました。

計画を立てて実行することで、周りを見て行動し、忍耐力と主体性を身に付けることができました。支えてくれたメンバーに感謝すると述べました。私も感心しました。

東糀谷小学校は、ロボットの工作について発表しました。地域の町工場から部品を提供してもらい、被災地での救助ロボットなど、非常に実用的なロボットの発表がありました。

調布大塚小学校は、持続可能な社会で活躍する自動車を考え、提案しようという題目で、企業と六郷工科高等学校に見学・インタビューに行って、排尿を燃料にする車を提案しました。

東蒲中学校は、多面的な視点で考える生物育成技術に関して、環境問題を取り扱いました。

東六郷小学校は、調べ学習「おおたを　もっと　しりたい４！」を進め、六郷とんび凧の歴史について発表しました。江戸時代、多摩川で捕った魚のカラス除けのためにできたこと、そして、このとんび凧を実際に製作したことを発表しました。また、地域に約 330 の町工場があるということを調べました。

徳持小学校は、調べ学習「日本の工業と大田区の関わり」を通して、大田区がいかに日本の工業の中で活躍してきたかを発表しました。

最後に、田園調布中学校は、職場体験学習を発表しました。ケーキ屋で、アップルパイの作り方などを学習していました。

次に、作品展示では、区立小学校・区立中学校・都立特別支援学校の力作が展示されていました。

当日は、大田区小学生科学展が同時開催されていました。最優秀賞に選ばれた矢口西小学校の児童による多摩川下流のアレチウリ調査の発表が展示されていました。特定外来生物であるアレチウリの多摩川河川敷での分布を地道に調査していました。他の研究発表もユニークで、新規性のある研究が展示されていました。

次に、ものづくり競技会では、技術・家庭科ともに実用的でユニークな作品の製作発表がありました。

今回、ものづくり教育・学習フォーラムは久しぶりに全体での開催となりました。たくさんのＰＴＡ、ＰＴＯ関係者が手伝ってくれました。このものづくり教育・学習フォーラムは、小学校と中学校のＰＴＡ、ＰＴＯが協働する行事の一つで、私も先輩会長たちから学ばせていただいた日のことを思い出しました。

次に、大森第二中学校の研究発表会に出席いたしました。先ほど、教育長からも話がありましたが、令和３・４年度の教育研究推進校で、「学校・家庭・地域の連携と実践共同体について　～コミュニティ・スクールの実践から～」が主題でした。具体的には、検定試験の支援体制を構築したというお話がありました。

各種検定試験は、生徒にとっては高校入試の際の加点等の利益になるので、ニーズが非常に高いということです。一方で、教員にとっては、本務以外の仕事で試験監督等での長

時間の拘束を伴うということでした。そこで、英語検定、漢字検定、数学検定の受付から、監督・事後処理まで地域の方々が運営する体制を構築されました。

自校で実施することで、受検者数と合格者数が増加し、教員は本務以外の仕事が減って負担軽減でき、教員の働き方改革につながっていると感じました。

また、その他にも、部活動支援、職場体験支援、授業支援を実施されていました。

次に、入新井第五小学校開校 90 周年記念式典・祝賀会に出席いたしました。子どもたちが非常にきびきびしていて、大きな声で合唱し、感動しました。式典祝賀会を準備、開催、運営してくださった関係者の方々に感謝を申し上げます。

○教育長

ありがとうございました。

○深澤委員

私は、第 21 回ものづくり教育・学習フォーラムと、大森第二中学校の研究発表会に出席いたしましたので、ものづくり教育・学習フォーラムについて感じたところをお話ししたいと思います。

私が見たのは、午前中の職場体験の発表ですが、子どもたちがＩＣＴを活用しながら発表する様子が、大人顔負けの堂々とした発表で、素晴らしいと思いました。

今回がフォーラム 21 回目ということで、大田区にとって年中行事になっていますが、こういう機会を設けて続けていくということは、子どもたちにとって発表を経験できる貴重な場であり、大変良い機会であると思いました。

また、今回感じたのは、キャリア教育の大切さということです。北内委員からも発表がありましたが、お客さんには分からない仕事の大変さ、お客さんへの気遣いを、子どもたちが身をもって体験していく。そういう体験を通して、周りの人々への感謝の気持ちやお店の方から受ける気遣いへの感謝の気持ちなどを学んでいくことができるのだと思います。

その感謝の気持ちを受け止めたことで、今度は自分が思いやりを持って周りの人に返していくということができるようになっていくのであり、これは生きた道徳教育にもつながっていくものであると感じたところです。

また今回、ものづくり教育・学習フォーラムが、六郷工科高校で行われましたけれども、高校生の皆さんも多数お手伝いに来てくださって子どもたちが作るのを手伝っていました。子どもたちはお兄さんたちに教えてもらうことを喜んでいたように見受けられまして、教える方、教えてもらう方、双方にとって良い関係が築け、良い勉強になる場であると考えました。

私が足を止めたのは、輪ゴムを６連発できる鉄砲を作る体験ができるコーナーで、お店で売っていてもおかしくないぐらいに、非常によくできていました。おそらく、工科高校の先生が設計して、それをこちらに提供してくださったのだと思いますけれども、そういうのも工科高校ならではの技術であると感じました。今回、工科高校で開催されたことは非常に良かったし、機会があればぜひ続けていってほしいと思いました。

○弘瀬委員

私は、ものづくり教育・学習フォーラムに午後から参加させていただきました。大田区はものづくりの町ですので、町工場からいろいろな部品をもらって、それを利用して災害時に役立つロボットを作成した学校がありました。発想的には、非常に良いと思いました。

今後、災害時に役立つものを作るのは、非常に大事になってくると思います。目の付け所がすごく良いと思いました。

それから、展示の中に特別賞、優秀賞、アイデア賞を受賞した作品がありました。アイデア賞の中で、黄身と白身を逆転させるというのがあって、それを実際にやってみましたが、難しくて成功しませんでした。

子どもたちが身近なものに興味を持ち、なぜ、どのようにしたらできるのだろうとかと興味を持ってやることは、非常に良いことだと思いました。最優秀作品は１月に日本科学未来館で大田区の代表として口頭発表があります。

最後のソーイング部門の入賞者の中に、女子ばかりでなくて、男子生徒が一人いました。非常に細かく、丁寧な作品を作っていたのに感動しました。デザイナーのなかには男性で活躍しているがたくさんいて、発想も素晴らしいものを持っています。彼が今後、どのような道に進むか分かりませんけれども、将来が楽しみです。

特別支援学校の子どもたちも、ものすごく力強い作品を作ってくれていました。その一つ一つの作品に感動しました。

〇教育長

ほかにご意見はよろしいでしょうか。

それでは、次の日程に移ります。

日程第２について、事務局職員の説明を求めます。

〇事務局職員

日程第２は、部課長の報告事項でございます。

〇教育長

それでは、部課長の報告をお願いいたします。

〇指導課長

平成 14 年度から開催している、ものづくり教育・学習フォーラムにつきまして、令和５年１月 14 日土曜日に開催いたしました。今年度で第 21 回となりました。

会場については、例年使用している大田区産業プラザ Pi0 が改修工事中のため、今年度は、東京都立六郷工科高等学校で実施しました。

新型コロナウイルス感染症対策を行い、作品展示、舞台発表、ものづくり競技会、ものづくり体験を実施しました。

本フォーラムは、大田区の子どもたち向けに、ものを創る感性、主体的な態度、工夫・創造する能力の育成等を目的に開催しており、令和２年度には、厚生労働省事業の「地域発！いいもの」に選出され、広く全国に周知されました。

大田区教育委員会が主催となり、様々な団体・企業等から共催、ご協力をいただいてお

ります。開催にあたっては、準備会委員長の大森第七中学校の増元啓彰校長先生を中心として、委員の校長先生や先生方に運営の準備を進めていただきました。また、小学校長会、中学校長会、大田区教育研究会、小学校・中学校のＰＴＡの皆様にもご協力をいただきました。

また、今年度新たに、作品展示は東京都立城南特別支援学校と東京都立品川特別支援学校、体験コーナーは、おおたコマプロジェクト大森工場協会の皆様にご協力をいただくことができました。改めて、心より感謝申し上げます。

体験コーナーについては、昨年度から、電子申請による事前申込制としております。今回の電子申請には、１次募集で 598 名、２次募集で 87 名の申し込みがあり、体験コーナーの人気の高さが伺えました。

密集を避けるため、抽選により人数を制限して、30 分から 60 分間の時間による入替制で実施いたしました。延べ 693 名の子どもたちに、ものづくり体験をしていただくことができました。

会場校の東京都立六郷工科高等学校の福田健昌校長先生には、体験コーナーの手伝いや舞台発表などが、生徒の良い学びにつながっているとおっしゃっていただきました。様々な体験や学習を通して、子どもたちはもちろんのこと、体験コーナーを出展していただいた各団体・企業からも喜びの声が聞かれました。

ものづくり競技会では、中学校の代表生徒が、当日の本番に向けて、準備や練習をしてきたことの成果を披露することができました。今年度も全員が作品を完成させることができました。

昨年度から、東京蒲田ロータリークラブのご厚意で副賞のご支援をいただいております。技術（木工）部門の最優秀賞者には３Ｄプリンター、家庭科（ソーイング）部門の最優秀賞者にはミシンを贈呈しています。

今回は、感染症対策により来場者を制限したため、例年に比べると当日の来場者数は減りましたが、それでも延べ来場者数として 4,894 名の皆様にご来場いただきました。

本フォーラムは、ものづくりのまちである大田区の教育における一大イベントとなっております。今後、参加した子どもたちが、ものづくりに興味・関心を持ち、将来のものづくりを支えたり、または関わったり、そしてその良さを伝え、応援し続けたりする、そんな人材になっていくことを期待しております。

〇教育長

ただいまのご報告に、ご意見・ご質問はありますか。

〇三留委員

私も、午前中に舞台発表、展示発表、体験コーナー、競技会の全てを見させてもらいました。先ほども、各委員から詳しいお話があったので、簡単な感想だけ述べさせていただきます。

舞台発表については、地域性や各校の取組を生かした様々な発表がありました。今年度は、環境への配慮、地球温暖化などに関連した発表が多かったように思います。ＳＤＧｓに関わった取組が各校で進んでいるなということを感じました。

展示作品も、プログラミング操作を伴う作品など、様々なものが出ていて、幅が広がったなという感じがいたしました。

それから、小学生科学展について、北内委員がお話しになっていますけれども、小学生とは思えないレベルの高い作品ばかりで感心しました。区全体で理科や科学に対する子どもの関心の高まりを感じました。

今回、大田区産業プラザ Pi0 から会場が変わったということで、関係の皆さんは大変だったと思います。とりわけ、指導主事の先生方には、大変なご苦労があったと聞いております。指導主事の皆さんをはじめ、たくさんの方々のご苦労のおかげで、素晴らしいフォーラムができたということで、感謝をしております。

〇教育長

ほかにございますか。

よろしいでしょうか。

これをもちまして、令和５年第１回教育委員会定例会を閉会といたします。ありがとうございました。

令和５年　第１回　教育委員会　定例会　　１月 23 日(月)　午後２：00～

教育委員会室

＜教育長の報告事項＞

＜部課長の報告事項＞

□教育総務部長

□参事（教育施設担当）

□教育総務課長

□教育施設担当課長

□副参事（教育地域力担当）

□副参事（施設調整担当）

□学務課長

□指導課長　　第 21 回ものづくり教育・学習フォーラムの開催報告について

□指導企画担当課長

□学校支援担当課長

□副参事（法務担当）

□教育センター所長

□幼児教育センター所長

□大田図書館長

令和５年１月 23 日

令和５年第１回教育委員会定例会日程

日程第１　教育長の報告事項

日程第２　部課長の報告事項

令和4年度　第21回ものづくり教育・学習フォーラムの実施結果について

事業の目的

○ものを創る感性、主体的な態度、工夫・創造する能力の育成
○ものづくりの重要性や技能、技術が果たす役割の理解、地域産業の重要性や、ものづくりを支える勤労者を尊敬する態度、望ましい勤労観や職業観の育成
○技術立国日本、ものづくりのまち大田の将来を支える人材の育成
○ものづくりへの興味・関心、社会・産業の理解の涵養による、地域への愛着の深化

実施団体等

○主催　大田区教育委員会
○主管　ものづくり教育・学習フォーラム準備会
○共催　大田区、大田区産業振興協会、大田区立小学校長会、大田区立中学校長会、大田区教育研究会、大田区立小学校PTA連絡協議会、大田区立中学校PTA連合協議会
○協力団体・企業等
達磨の会、おおた少年少女発明クラブ、キャリアクリアリング、東京都立城南職業能力開発センター大田校、おおた fab、蔵前工業会・くらりか、六郷 BASE、大田工業連合会、おおたコマプロジェクト　大森工場協会、東工大 Science Techno、東京都職業能力開発協会、東京都洋裁技能士会、大田区に昆虫の楽園を作る会、東京蒲田ロータリークラブ、日本工学院専門学校、東京都立六郷工科高等学校、東京都立つばさ総合高等学校、東京都立矢口特別支援学校、東京都立城南特別支援学校、東京都立品川特別支援学校、蒲田女子高等学校、大田区建築あっせん事業連絡協議会、(株)ジャノメ、日本赤十字社、大田区環境計画課
※＿＿＿下線は令和４年度新規

事業の沿革（経過）

○平成 12・13 年度、14・15 年度、16・17 年度に文部省（文部科学省）「ものづくり学習振興支援事業推進地域」として指定
　平成 12 年度よりものづくり学習振興協議会の設置・開催
○平成 14 年度よりものづくり教育・学習フォーラムの実施
（過去数年の来場者数　第 12 回 4141 名　第 13 回 5515 名　第 14 回 7919 名　第 15 回 6850 名　第 16 回 9646 名　第 17 回 7953 名　第 18 回 6469 名　第 19 回中止　　第 20 回 2191 名）
○令和2年度　厚生労働省事業「地域発！いいもの」に選定

本年度の事業内容

日時：令和５年１月 14 日（土）9:00～16:00
会場：東京都立六郷工科高等学校　対象：大田区内小中学生、保護者、区民

○作品展示　小学校 30 校、中学校全 28 校、特別支援学校３校、○大田区小学生科学展　30 校

大田区立小学校（学校番号が偶数の学校 30 校）、中学校全 28 校、東京都立特別支援学校3校の児童・生徒のものづくり学習の作品や成果のパネル展示、机上展示を行った。大田区小学生展は、東京都小学生科学展向けに出品された大田区立小学校の学校代表作品 30 点のパネル展示を行った。作品展示については、会場の体育館で行い、参加者が自由に見学できるようにした。

○舞台発表　小学校９校、中学校５校、高等学校２校

社会科や図画工作、家庭科、総合的な学習の時間等、授業でのものづくり学習の体験発表、中学校の生徒による職場体験における事業所での製作体験や見学の発表、東京都立六郷工科高等学校、蒲田女子高等学校のものづくり学習について、児童や生徒が舞台発表を行った。

○ものづくり競技会　技術分野：中学校８校 15 名、家庭科分野：中学校７校９名

技術（木材加工）分野は、「一枚板からの自由作品製作」、家庭科（ソーイング）分野は、「1mの布からのバッグ製作」をテーマとし、午前・午後合わせて約4時間で作成した。講師による審査を行い、最優秀賞、優秀賞、技能賞、アイデア賞、敢闘賞を授与した。

○ものづくり体験　16 団体による 19 種類の体験

イルミネーションライト、ミシンでつくる巾着袋、カリンバ工作、ペン立て、3D プリンタでネームプレート、箕編みの壁掛け、貝殻アート、種の標本、紙コプター、はたおり体験、わりばしてっぽうとマトあて、ミニ椅子作り、ギシギシプロペラ、3D プリンタ製スピログラフでグルグル模様を描こう！、BWB、おおたコマ組み立て体験　パーツ作り、夜空にキラメク星の世界づくり、はんだづけ体験「光るメモクリッパー」、レーザー加工機で作る6連発輪ゴム鉄砲！

六郷工科高「はんだづけ体験」

つばさ総合高「機織り体験」

本年度の成果と課題

（延べ）来場者数：4894 名（うち、体験コーナー参加幼児・児童・生徒：693 名）

【成果】・新型コロナウイルス感染症対策として、昨年度同様「ものづくり体験」は電子申請による事前申込制、「ものづくり競技会」は見学者を入れずオンライン配信にして実施することができた。
・「作品展示」「大田区小学生科学展」は通常どおり開催し、保護者の参観も行うことができた。「舞台発表」は、保護者の参観を１名までとし、座席の間隔を広くとることができた。
・昨年度同様、東京蒲田ロータリークラブから御支援をいただき、「ものづくり競技会」の各賞に副賞の提供をいただいた。技術（木材）部門の最優秀賞は３Ｄプリンタ、家庭科（ソーイング）部門の最優秀賞はミシンを御提供いただいた。
【課題】・新型コロナウイルス感染症の影響により「舞台発表」については、保護者の参観者を１名までとし、「ものづくり競技会」についてはオンライン配信を行った。大田区感染症対策ガイドラインに基づき、開催の方法について検討していく。